

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		まごころ		公表日		令和7年 3 月 日	
環境・体制整備	手チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
		1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		室内での活動に対しての、活動内容によっては力加減等も学ぶようにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数確保は適切であるか。	7	1			職員のシフト状況では、人数が足りない日もある。また、職員の数でギリギリである為、急な休みに対応できない等がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障壁の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	声の大きさや、日付、曜日の意識付けとしてまた、障壁なども含む見える化している。もう少し視覚化できたらと思う。		バリアフリーは確保されているが、スロープも無い。視覚情報は少ない状況である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	8		小学生には、自分たちで掃除をしてもう習慣をつけています。		清掃の頻度がない。物としまつてこどもがなかなか見えずにしまっている為、改善が必要。基本的には毎日清掃しているので清潔だが、其下など年に1度は消毒が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	2			学習机の数が利用児童数に対して少ない。その為、学習机に座れない児童は個別空間ではない場所での学習になってしまっている。
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか。	8		月に、職員の全体目標を決めて、振り返りを行っている。		
業務改善	7	保護者向け評価票により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		改善ができることはしているが、現状難しいことも出てくることもある。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎月の会議で意見交換している。また、その都度何かあれば、解決しながら円滑して業務を統一している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8		研修は、外部の研修等があったときには、積極的に参加したい研修を受けている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等サービス計画を作成しているか。	8		アセスメントを保護者様から頂いて、それを元に実践を行っている。		
	13	放課後等サービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者がだけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		モニタリングを通して、職員には子どもの発達の変化などを用紙に記入してもらい把握して課題を改善出来るように行っています。		
	14	放課後等サービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		更新をされた後は、必ず目を通して行くように周知をして、計画書をもとに支援を行うようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		保護者さんへ、お子さんの様子のアセスメントしてもらい、それに基づいて行っている。		
	16	放課後等サービス計画には、放課後等サービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				計画書には記載されているが、現状として、全部の項目ができていない形ではない。地域連携連携は、話し合いが必要なため中々難しいところがある。ただ、行事に関しては地域との交流を行っている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		月の活動予定表をだして、その後のレク活動の詳細は職員間でできている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		日々、活動内容はマンネリ化しないように取り込んでいる。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等サービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		毎朝、個別を行い、その後活動に入るようにしている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		申し送り等や、LINE等を用いて、情報連携を行っている。また異質がけが必要なときもあるが、状況に応じて臨機応変に対応している。		
	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、良かった点等を共有しているか。	8		児童館へ報告をおいたり、LINEでその日の重要なこと共有している。行事に関しては振り返りを設けている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日報や、週日の申し送り、業務引継ぎにて共有されている。		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		状況によって、成長過程の中で変化が見られた時には、計画書を更新している。		
	24	放課後等サービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8		光療室が出席している。		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を学ぶのを育てるための支援を行っているか。	8		各児童によっては、選択している児童もいる為情報共有が必要に応じている。		自己決定する力を養えるようにもう少し、工夫をしていきたい。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	8		必要に応じて、ケース会議を入れることや、訪問や電話等で行っている。		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		必要に応じて行っている。		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連携）を適切に行っているか。	8		迅速にTEL電話等で、その日のうちに解決できるような心がけている。		中々、学校や児童会館によっては、連携が取れない所もある為課題となる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を深めているか。	8				
	30	学校を卒業し、放課後等サービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		他の事業所と連携を取り、訪問して助言をもらうこともある。		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8				児童会館等の現状は、中々難しい為、交流自体はできていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8				協議会というよりは、発達等で積極的に参加させてもらっている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8				家族支援を行っているが、研修などの情報が出ていない為、子育てについての研修や講座は交流会等で地域で行われてもらう対応が必要。
保護者への説明	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8				
	37	放課後等サービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえ、こどもや保護者の意向を確認する機会を設けているか。	8				
	38	「放課後等サービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等サービス計画の同意を得ているか。	8				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、相談や必要な助言と支援を行っているか。	8				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		大きな行事時には、保護者様も参加型にして行っている。		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8				
	42	定期的に連絡等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8				
	43	個人情報取扱いに十分留意しているか。	8				
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	8				地域の方を招くというよりは、こちらからお伺いさせてもらっている。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	4			現状、家族については、難しいところがある。今後、家族の方にも、どのようにご家庭で緊急時の対応をしてもらうかを確認していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な訓練、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		事業所で、避難訓練をおこなっている。		地震対策の、防災訓練等を購入したり、非常食を用意して備えていく必要がある。
	48	事前に、避難や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		緊急児童等は、避難ノートなども含めて把握をして行っている。		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	8		アレルギーチェック表を保護者に記入していただいている。		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		BCPを作成している為、それに基づいて行っている。また、業務継続カードを使用して、災害時等や、外出時はしっかりと行っている。		
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1				
52	ヒヤリハットを事業所内で発生し、再発防止に向けた方策について検討を行っているか。	8				ヒヤリハット・事故報告書を持ち入り行っている。安全警を駆逐して、会議等で再度事故が起らないようにしている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		研修を行い、虐待に関しての意識を高めるようにしている。			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に周知した上で、放課後等サービス計画に記載されているか。	8		拘束をする対象児童がいないが、児童の権利に関してはそのような場合にはお伝えしている。			